

復興へ弾み  
常磐線広野―竜田間運転再開



↑3年3か月ぶりに乗客を迎えた竜田駅

東日本大震災後3年3か月不通だったJR常磐線広野―竜田間が、6月1日(日)に営業運転を再開しました。旧警戒区域での運転再開は、初めてです。初日の1日は、広野町の職員約20人も乗車しました。

校外学習で被災地を視察  
千葉県八千代市の中学生が来町



↑広野町を訪れた八千代市立村上東中の生徒

千葉県八千代市立村上東中学校の生徒約120人が、6月6日(金)に広野町を訪れました。校外学習(修学旅行)の一環として東日本大震災の被災地である広野町を視察したもので、広野町公民館で遠藤町長のあいさつを受けたあと、町の大和田参事兼総務課長たちから震災の対応と復興の現状を学びました。最後にお礼として「命の歌」を全員で合唱しました。



↑救急救命法、AED講習会の様子

せせらぎにほくも魚もすきとおる  
クリーンアップ作戦を実施



↑クリーンアップ作戦の様子

広野町は、6月8日(日)の早朝から、町内の浅見川、折木川、北迫川の3河川で、河川愛護団体などの協力を得て、広野町クリーンアップ作戦を実施しました。この清掃活動は、河川・海岸愛護月間に併せ、流域全体の良好な河川環境の保全や再生を積極的に推進するとともに、河川愛護意識の普及を図ることを目的としています。町民や企業のみなさん、町職員など約500人が、河川敷に投棄された空き缶、紙屑、廃材などのごみの回収、流木の除去などを行いました。

児童館でオーガニックコットン



↑オーガニックコットンの苗を植える子どもたち

6月9日(月)、こどもふくしまオーガニックコットンプロジェクトの一環として、広野町児童館の子どもたちが、オーガニックコットンの苗を植えました。苗を植えた後、みんなで「大きくなあれ」とおまじないの掛け声をかけました。

備えあれば憂いなし 応急仮設住宅で  
救急救命法、AED講習会を実施

広野町は、6月10日(火)、下浅見川応急仮設住宅談話室で、救急救命法、AED使用法の講習を行いました。住民からの要望に応えたもので、町民と町職員合わせて20人以上の参加者がありました。富岡消防署の救急救命士を講師に招き、人口呼吸法やAEDの使い方を実習で学びました。



↓国際シンポジウム「広野町から考える」の様子



～避難先からの“幸せな帰町”に向けて～  
国際シンポジウム  
「広野町から考える」

広野町は、6月15日(日)、広野町公民館で国際シンポジウム「広野町から考える」～避難先からの“幸せな帰町”に向けて～を開催しました。会場には約130人の観客が訪れ、津波や台風からの復興に詳しい海外の研究者と、広野中の生徒3人や女性の町民が「幸せな帰町」についてパネルディスカッションをしました。そして、最後に出演者全員で「広野町からのメッセージ」を発表しました。

県内一の証し  
消防団が民報金ばれんを受賞

6月7日(土)に郡山市で第67回福島県消防大会が開催され、その席上で広野町消防団に、県下一の消防団をたたえる「民報金ばれん」が送られました。津波からの住民避難誘導や被害者の捜索、夜間の防犯・防火活動などが評価されたものです。

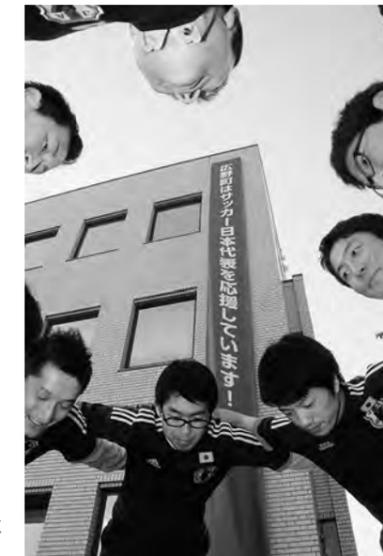
第67回福島県消防大会



↑広野町消防団に贈られた民報金ばれん

日本代表応援プロジェクト  
応援垂れ幕を掲示

広野町はサッカーのまち。サッカー日本代表の2014 FIFAワールドカップブラジル大会での活躍を期待し、「サッカー日本代表応援プロジェクト」で声援を送っています。5月23日(金)に広野産米を贈呈したのに引き続き、6月2日(月)からは、役場庁舎にサムライブルーの応援垂れ幕を掲示しています。垂れ幕は庁舎の外と中との両方にあります。



→庁舎に掲げた応援垂れ幕